絵

二年

画数 12
筆順 糸 絵 絵
オン カイ・エ
クン

成り立ち

糸をより合わせたかたちの〝糸〟は、〝緑〟〝紺〟〝紅〟（あか）〝紫〟など、〝いろ〟といういみをあらわすのにつかわれる字です。

この〝糸〟と〝会〟とを組み合わせてつくった字で、「いろいろな〝いろ〟を〝あわせ〟てかく〝絵〟」をあらわしたものです。

〔絵は、中国から、〝エ（呉音）〟という言葉といっしょにわが国に伝わる。それまでわが国には絵がなかったので、絵を表す言葉がなく、中国の言葉の〝エ〟をそのまま使った。だからこの字には訓がない。〕

使い方

▽わたしがあそびにいったともだちのいえには、きれいな絵が、かかっていました。青いうみの上に、白いふねがうかんでいる絵でした。

▽ぼくは絵をかくのがすきです。パレットにいろいろないろを出して、まぜあわせるのがおもしろいのです。きょうは、おかあさんのにがお絵をかきました。

熟語例

▽絵画（絵のこと。「画」も「絵」とおなじいみの字です。「絵画」は、「絵」の、ちょっとあらたまった、つかいかたです。）

▽絵心（絵がすきで、いい絵か、わるい絵か、どこがいいかなどということが、わかること。また、絵をかきたいというきもちをさすこともあります。）

▽絵巻物（絵でものがたりなどをあらわした巻物です。ながいかみにかいて、ふだんはクルクルと巻いてあるので、「巻物」といいます。）

外

二年

画数 5
筆順 ノ ク タ 夕 外
オン ガイ・ゲ
クン そと・ほか・はず＝れる＝す

成り立ち

〝月〟のかたちをあらわし、〝夜〟のいみにつかわれる〝夕〟と、〝うらない〟のいみをあらわした〝卜〟とを組み合わせてつくった字です。

むかしは、うらないは〝あさ〟のうちにするのがしきたりになっていました。それで、「夜のうらない」は、しきたりに〝はずれる〟というので、〝外〟は〝はずれる〟といういみをあらわしたものです。

しかし、「月（夕）は戸（卜）の〝そと〟にある」とおぼえたほうがよいかもしれません。

使い方

▽わたしのねこのミイが、外にあそびにいきました。ミイは、あまり外にでませんが、いったんでると、ずいぶんながいあいだ、かえってきません。

▽ぼくは外国にいったことがありません。いつか、きっと、うみをこえて、いってみたいとおもいます。

▽屋外テニスじょうで、テニスをしている人たちは、とてもたのしそうでした。

▽外見はきれいだが、なかみはだめです。

熟語例

▽内外（あるものの内がわと外がわ。とくに、国の中と外のことをさします。「内外の事情に通じた人」といえば「日本や外国の、いろいろなことを、よくしっている人」といういみです。）

▽外国（日本いがいの、よその国のこと。）

▽屋外（家の外のこと。）

▽外交（外国との交際。よその国と、おつきあいすること。「外交官」といえば、外国へいって、その国の人と、日本のために、交渉する人のことです。）

▽外見（外から見たようす）